

Value-based medicineの推進に向けた循環器病の疾患管理システムの構築に関する研究

研究分担者 安齊 俊久 北海道大学大学院医学研究院 教授

研究要旨

心不全患者の急性期の予後予測、慢性期以後の多職種による多面的疾病管理の実態を明らかにするため、心不全患者に対する多面的包括的管理に対する質問票調査による横断調査を実施した。結果、地域連携パスの使用率は14.4%であり、約4割の施設で心不全悪化リスク評価を行っていたが、心不全増悪を予防するための取り組みは約6割の施設で実施されるにとどまっていた。

A. 研究目的

心不全患者の急性期の予後予測、慢性期以後の多職種による多面的疾病管理の実態を明らかにする。

B. 研究方法

心不全患者に対する多面的包括的管理に対する質問票調査(下記項目)による横断調査を実施する。

- 1) 生命予後評価
- 2) QOL維持のための多面的予後評価
- 3) 多職種連携による疾病管理の実施と実際

C. 研究結果

日本循環器学会研修病院 431 施設へのアンケート調査の結果、以下の結果が得られた。

- ① 62 施設(14.4%)で地域連携パスを使用。
- ② 307 施設(71.2%)で急性期病院とかかりつけ医の連携がとれていた。
- ③ 175 施設(40.6%)がリスク評価(重症化・再発・QOL低下等)を行っていた。
- ④ 252施設(58.5%)が心不全重症化・再発・QOL低下予防に関する何らかの取り組みを行っていた。

D. 考察

地域連携パスの使用率は2割以下であり、今後更なる普及の努力が必要と考えられる。そのためには各地域レベルで多職種連携のプラットフォーム構築の努力が必要である。また、心不全増悪による入院中に多職種連携による重症化予防の取り組みを向上させるための啓発活動が必要と考えられた。

E. 結論

心不全診療の質向上を目指した多職種連携の普及は十分でなく、連携のさらなる啓発が必要である。

F. 健康危険情報

(総括研究報告書にまとめて記載)

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Chiba Y, Iwano H, Tsuneta S, Tsujinaga S, Meyers B, Vlachos P, Ishizaka S, Motoi K, Aoyagi H, Tamaki Y, Tanemura A, Murayama M, Yokoyama S, Nakabachi M, Nishino H, Kaga S, Kamiya K, Ohira H, Tsujino I, Anzai T. Determinants of altered left ventricular suction in pre-capillary pulmonary hypertension. Eur Heart J Cardiovasc Imaging 2022; 23: 1399-1406.

2. Murayama M, Kaga S, Okada K, Iwano H, Maedomari S, Nakabachi M, Yokoyama S, Nishino H, Tanemura A, Tsujinaga S, Chiba Y, Ishizaka S, Motoi K, Kamiya K, Nishida M, Nagai T, Anzai T. Clinical utility of superior vena cava flow velocity waveform measured from the subcostal window for estimating right atrial pressure. J Am Soc Echocardiogr 2022; 35: 727-737.

2. 学会発表

1. 安齊俊久. 心不全パンデミック～緩和ケアに関する提言～. 日本臨床内科医学会. シンポジウム. 2022年9月 名古屋.
2. 甲谷次郎, 佐藤琢真, 立田大志郎, 西野広太郎, 小林雄太, 成田尚, 敦賀健吉, 青陽千果, 池田陽子, 小島尚子, 古山勇氣, 小野田絃子, 加藤美香, 永井利幸, 安齊俊久. 末期心不全患者の難治性不整脈に対するICD治療機能停止 (deactivation) の検

討を多職種で行った一例. 第70回日本心臓病学会学術集会. . 2022年9月 京都
(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし